



Title	巻頭言
Author(s)	高野, 伸栄
Citation	年報 公共政策学, 13, 1-1
Issue Date	2019
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/74413
Type	bulletin (other)
File Information	13-01_Kantogen_Takano.pdf



[Instructions for use](#)

巻 頭 言

13号となる本年の「年報 公共政策学」は石井吉春先生の記念号です。石井吉春先生は、2005年4月、北海道大学公共政策大学院の設立から今日に至る14年の間、「理論と実務の架橋」を担う実務家教員として在職され、定年により、本年3月をもって、退職されました。本誌の編集を担う研究委員会（委員長 榎本芳人教授）は、編集方針を「2018年度の年報公共政策学は、石井吉春教授の記念号とする。具体的には、石井教授の略歴、献辞、石井教授に縁のある研究者の論文2、3編を特集として掲載する。」として、編集作業を進めてきました。

本号では、石井先生の略歴とともに、本年2月13日に開催された最終講義の内容が記されております。そして、石井先生とご関係が深い方々から特別にご寄稿をいただいております。特集の冒頭は、本大学院で石井先生とともに歩んでこられた宮脇淳先生によるもので、金融機関の第一線として活躍される石井先生が、本大学院への着任を決められた時の感動や、院長を含むその後のご活躍とともに、石井先生から学ばれたこと、そして石井先生への感謝のことばが綴られています。ついで、三氏からの論文が掲載されています。なお、石井先生は、来年度からは名誉教授及び客員教授として、公共政策大学院において、さらにご活躍いただけることとなっております。

平成が終わりを告げようとする本年3月、本大学院は14回目の修了生を送り出しました。来年度は15年目となり、5年に一度必要な3回目の認証評価を受けることとなります。この間、本大学院から他分野に渡る多くの修了生が巣立ち、1期生は中堅といわれる年齢に達しました。これまで本大学院で教鞭をとられた教員の方々を含め、本大学院の同窓会員は大きなパワーを持ち、以前にも増して、実際の公共政策へ大きな影響をもたらすことが可能となってきました。このような中、本誌は本大学院の教員、学生、研究員を中心とする研究や政策形成に係わる諸活動を発表、議論する場所として、ますます発展することが期待されています。本誌の発刊は、執筆者はもちろんのこと、編集等多くの方々のご協力があって、なし得たものです。皆様に感謝を申し上げるとともに、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます次第です。

高野 伸栄
北海道大学公共政策大学院長（平成31年3月末まで）・教授